

## 子どもが実感する効果とは？

現代社会で学校が求められる役割には様々なものがありますが、子ども達の現在及び将来のWell-being（ウェルビーイング）の向上が大切だと思っています。心の健康観察はその大きな可能性を秘めた取組だと感じています。

本文で紹介したスタンドバイ株式会社さんのアンケートした結果【表】からは、自己理解や相談をすることの理解促進など、子ども達自身が様々な良さを感じていることが分かります。このような良さの実感と共有が、ひょっとすると時間の確保（捻出）などの議論や工夫よりも大切なのではないのでしょうか？健康観察は学校側の管理という意味合いもありますが、本来的には子ども達が自身の心身の健康に関心を持つことが大切ですから、教師の指示で行うということに留まっていたのでは持続可能性は低いでしょう。

SOSの早期発見のために「入力させる」のではなく、子ども達自身が「入力しようとするのを支える」取組が大切です。事実、保健委員会など子どもから子どもへの声かけが、教師からの声かけ以上に効果的であることは県内の先行実施校からも報告されています。要は、子ども達自身が心の健康観察に意義を見だし、主体的な取組にする視点が大切であり、まさに「発達支持的生徒指導である」と言えると思うのです。（高橋）

	グループ	記述例	回答数	割合	
良い 84.6%	日々の回答による効果 35.0%	1. 自己理解	自分のことがわかって面白い	98	7.5%
		2. 体調理解	毎日の健康を知れる／体の具体が分かる	190	14.5%
		3. 気持ち理解	自分の心を整理できる／気持ちがよく分かる	68	5.2%
		4. 楽しい・すっきりする	シャボテンのおかげで朝が楽しい／気分が軽くなる	68	5.2%
		5. 生活の改善	朝ご飯を食べる習慣がついた／健康を重視し始めた	37	2.8%
	先生との関わり 15.7%	6. 相談しやすさ	相談がしやすくなった／いじめ防止につながる	80	6.1%
		7. 安心感	嫌なことをされた時に押せる／先生が自分の事を分かってくれる	49	3.8%
		8. 気持ちの伝えやすさ	前よりも自分の気持ちを伝えるようになった	54	4.1%
	機能的な強み 29.0%	9. 体調の伝えやすさ	自分の体の具合を正確に伝えるようになった	22	1.7%
		10. 簡単・便利	ボタンを押すだけだから簡単／時間短縮になる	214	16.4%
		11. 記録のよさ	過去の調子を振り返れる／グラフが分かりやすい	124	9.5%
		12. キャラクターの可愛さ	シャボテンのキャラが可愛い	41	3.1%
		13. 単純肯定	いいアプリだと思ふ	61	4.7%
不満 6.8%	14. 使いにくさ	「今の気分は」という質問の意味がよく分からない／ラグイ	51	3.9%	
	15. 継続の大変さ	毎日少し大変／入力を忘れそうになる	38	2.9%	
	16. めんどくささ	わかりきったことをわざわざ押すのが面倒	67	5.1%	
	効果のなさ 7.4%	何も変化がなかった／あってもなくても変わらない	30	2.3%	
	17. 無意味さ	何も変化がなかった／あってもなくても変わらない	30	2.3%	
悪い 14.2%	18. その他	健康診断みたい	15	1.2%	

スタンドバイ株式会社提供の資料をもとに作成



# 生徒指導

## Leaflet @ OKAYAMA

リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

# 心の健康観察②

前号では「心の健康観察」の必要性を中心にお話しましたが、今回は、県教委が導入しているシステム事業者さんに提供いただいたデータから見えるメリットや、連絡協議会で先進実践校の先生方から報告のあった効果的な取組について紹介します。時程や児童生徒の実態など、まったく同じことはできないかもしれませんが参考にしてください。

岡山県教育庁  
人権教育・生徒指導課

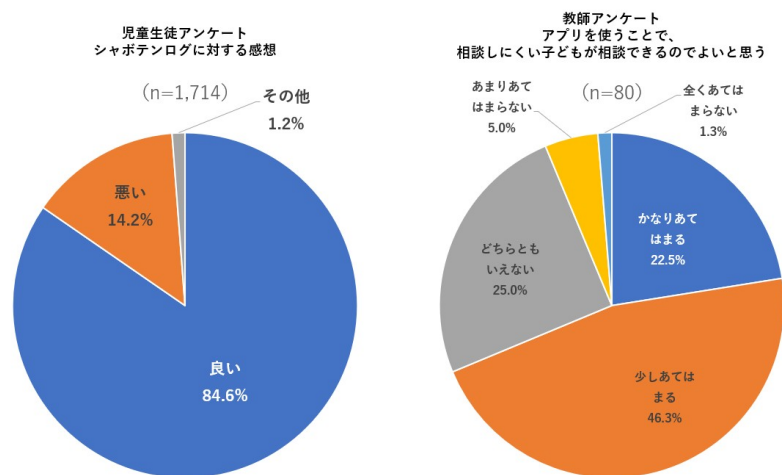
〒700-8570  
岡山県岡山市北区内山下2-4-6  
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

## Q. 「心の健康観察」に取り組むことの効果について、もう少し教えてください。

当事者の声としての効果

A.岡山県教育委員会では、「シャボテンログ」というアプリで心の健康観察に取り組んでいます。まず令和6年度に県立学校9校で先行導入して実践研究を行った後、徐々に導入校を増やして取り組んできました。

アプリを運営するスタンドバイ株式会社さんが、全国の導入校の児童生徒・教諭を対象に昨年1月実施したアンケート結果によると、想定外のものも含めて様々な効果が明らかになったようです。



【図1】シャボテンログの効果（スタンドバイ株式会社調べ）

## 大人からの働きかけが重要

同社の報告には、もう一つ面白い（というより学びになる）結果が紹介されています。アプリを利用している児童生徒に「困ったときに、自分の気持ちを誰かに話そうと思うようになった」かどうかを聞いたところ、年齢が高くなるほど肯定的な回答をする割合が減ることが明らかになりました。「子どもが大きくなると、相談してくれない」とよく言われますが、同様の結果になったと言えます。

しかし、同じ調査で「先生がよく声をかけてくれたり、気にしてくれるようになった」という質問との関連（相関）を調べたところ、「先生からの声かけが増えた」と感じている児童生徒ほど、「話そうと思うようになった」と答えており、しかもその相関は年齢が高いほど強いという結果【表】になったとのことです。

つまり、アプリを使いさえすれば子どもはSOSを出すようにな

るのではなく、アプリの入力結果を基に「大人が意識して声かけをする」ことによって、児童生徒ははじめて「大人がきちんと対応してくれるなら、話してみようかな」という気持ちになるということです。入力結果を踏まえて、「何か気になることがある？（いいことがあった？）」など、まずは大人のほうから「声をかける」「気に掛けているよ」という働きかけを起すことが必要だということになります。

日々の忙しさ、児童生徒の表現力の低さなどから、声かけのきっかけ自体が掴みにくくなっているようにも思います。まして心の底に心配事を抱えた児童生徒への声かけとなれば尚更、難しい。「教室では元気そうなあの子の入力結果が気になる」、日常の観察では見落としがちな児童生徒への貴重な働きかけのきっかけや材料を提供してくれるという意味で、心の健康観察などの結果は有用性が高いと言えます。

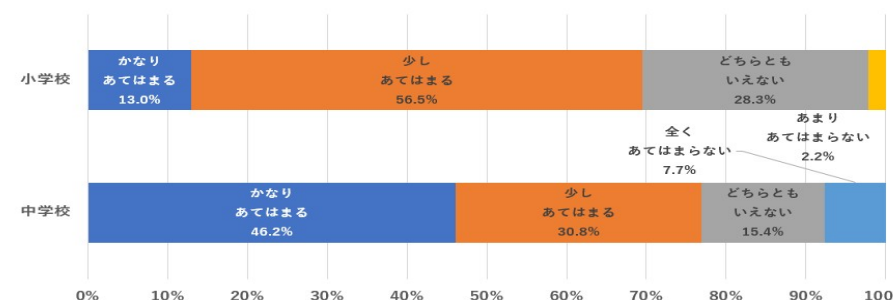
【表】「先生からの声かけの増加」×「話そうと思うようになった」の相

学年	相関係数
小学校低学年	0.140
小学校高学年	0.488
中学生	0.633z

## 教師集団も変化

先生方への調査結果からは、年齢が高くなるほど児童生徒の相談行動への好影響を実感【図2】されているようです。また、先生同士の児童生徒の様子などに関する情報共有の機会も増えるという影響もある【図3】ようです。

同僚性も高まる



【図2】アプリを使うことで、相談しにくい子どもが相談できるので良いと思う



【図3】先生同士で情報共有する機会が増える

## POINT

学校の教育相談を充実させる「きっかけ」になる



『提要』のダウンロードはコチラ